

# 都道府県名：兵庫県 団体名：百間樋井組

## 地域

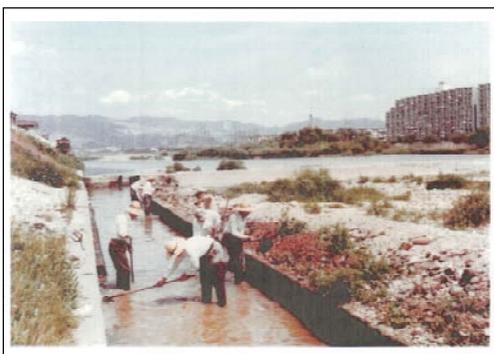
百間樋井組が活躍されております、兵庫県西宮市は、京都と下関を結ぶ西国街道と、大阪と西宮を結ぶ中国街道が交わる宿場町として、古くから栄えてきた街です。主要産業は、伝統産業である酒造業をから発展した飲食料品の製造業があげられます。同市は、平成7年1月に発生した兵庫県南部地震により、壊滅的な打撃を受けましたが、都市の復興・再建に懸命に取り組んだ結果、震災前の人口を超える、約48万人が暮らしています。

## 経歴

百間樋の歴史は、非常に古く、工事が行われたのは、今から400年以上も前だといわれています。慢性的な日照りに悩まされていたこの地域では、近くを流れる武庫川から、天井川となっている仁川を横切るように川底を掘り、木製の樋を伏せて水を引く方法を考案しました。そして、樋の長さが百間(約180m)あったため、「百間樋」と呼ばれ、今日に至るまで西宮地域を潤しています。また、昭和32年には、百間樋井組と西宮市水道局との間で覚え書きを交わし、百間樋導水路を水道用水にも利用することができる共用施設といたしました。

## 功績内容

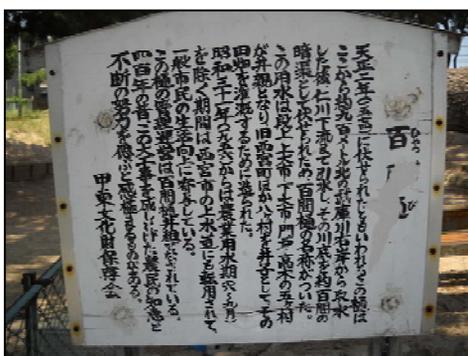
- ・百間樋導水路が完成し、水道用水として利用されるようになって以来、導水路の監視及び清掃について、常に監視員を配置し、西宮市水道局と連携して水道用水の安定供給に貢献されてきました。
- ・大雨によって導水路に土砂が堆積した際には、早急に浚渫作業を行うなど、通水の確保にご尽力されています。
- ・昭和34年6月より今日に至るまで、「西宮市武庫川水利対策委員会」として、行政と連携して水路の維持管理や水利対策について検討を行ってきており、水資源行政の推進にも協力されています。



浚渫作業(昭和50年頃)



浚渫作業(昭和50年頃)



歴史を伝える立て看板



現在の浚渫作業